ラリグラス・ジャパン News Letter

#01
2018
6月号

紫陽花が雨の中綺麗に咲く季節。みなさま、お元気でお過ごしでしょうか？

あらためまして、いつもご支援いただきありがとうございます。おかげさまで、『マイティ・ネパール』、『NDWS』、『レスキュー・ファンデーション』のいずれも、滞ることなくすばらしい活動を継続しております。

そうした現地の様子を、これまで年2回（春・秋）発行の『ラリグラス・レポート』にて報告してまいりましたが、今年度から少しスタイルを変えて、年2回のニュースレター（3月、6月発行）と、1年間の活動報告書（11月発行）をお届けさせていただくこととなりました。ニュースレターには、カラー写真も掲載！併せて、フェイスブックやホームページなどを通じ、より多くの現地情報を報告させていただく所存です。よろしくお願いいたします。

認定NPO法人 ラリグラス・ジャパン
〒108-0072 東京都港区白金3-10-21　TEL&FAX 03-3446-2193
E-mail：info@laligurans.org　http://www.laligurans.org

現地活動報告　マイティ・ネパール

'08年5月、240年近く続いた王制が廃止され、連邦民主共和制への移行が宣言されたネパール。以降、新たな国づくりが行われ、10年目となるこの1月、全7州の長たる知事が中央政府によって指名された。

そのひとりとして、3州の知事に任命されたマイティ代表・アヌラダ・コイララさん。議会が行われるヘタウダと、マイティのあるカトマンズを忙しく行き来する中、今後の抱負を聞かせていただいた。

「4月27日、議会で初のスピーチをします。そこで人身売買廃絶、教育の無償化と誰もが学校に通える環境づくり、賄賂の根絶など、3つの目標について話す予定です。3州には13県あり、その内9県に人身売買問題があります。私が属する与党の提案は通りやすいので、積極的に議会に諮り推し進めていくつもりです」

多くの子どもたちと過ごしてきたアヌラダさん。公邸での一人暮らしは淋しく、24時間行動をともにするボディガードの存在も居心地が悪いようだが、問題解決に向けてますます意欲的な様子だった。

アヌラダさんの知事就任は、ヘタウダ・プリベンション・キャンプの活動にも好影響を与えていた。責任者のマヤさんいわく、「警察や役人のなかには、何度も掛け合わなくては動いてくれない人もいました。挨拶しても無視されることもありましたが、最近は向こうから声をかけてくれます。仕事がやりやすくなりました」とのことだった。

毎年4月上旬に催されるマイティ創立記念行事。今年もスタッフや入所者の女性と子どもたちが趣向を凝らした出し物を披露し、大いに盛り上がった。そのなかで、縫製トレーニング修了者7名に対し、ミシン贈呈式が行われた。今年で3年目を迎えるテーラー開業支援プロジェクト。2月28日、前期と前々期の修了者60名に対し、聞き取り調査を行ったところ、テーラーを開業し、月平均1万ルピーの収入を得ている女性や、学ぶことの大切さを再確認し、途中で辞めてしまった学校に通い始めた少女など、喜ばしい成果が確認された。今後は、縫製トレーニングに加え、農業トレーニングなど、確実性の高い収入向上プログラムを実施する予定とのことである。

レスキュー・ファンデーション

人身売買被害者を救う活動は、長年、抑圧され続けてきた心身の健康を回復させ、社会復帰のサポートを行うことこそが大切とされる。そのためレスキュー・ファンデーションは、ムンバイ、ボイサル、プーネの3か所のシェルターにおいて、医療ケアやリハビリ、基礎教育や職業訓練の機会を提供し、多くの被害者の人生の再スタートをサポートしてきた。

そんなケアの場が、デリーにも開設された。これまで、「十分な食事も与えられず、リハビリもなされていない。施設スタッフによるイジメも横行している」などの悪評が聞こえる政府運営の施設に保護されていた被害者たち。退所しても社会復帰が果たせずに、自ら売春宿に戻ってしまう被害者も少なくなかったが、今後は十分なサポートが実現可能となった。

'17年12月31日に行われたオープニングセレモニーには、人身売買廃絶を目標に、ともに戦ってきたマイティ・ネパール代表・アヌラダさんや副代表・ビシュワさん、20年来のドナー仲間であるドイツBONO代表・ゲリオンさん、チャンス・スイス代表・コリンさんはじめ、デリー警察幹部や女性と子ども福祉省スタッフなど、多くの方がお祝いに駆けつけた。当会からは、代表・長谷川と監事・久保田が出席させていただいた。

ネパール障がい者女性協会（NDWS）

『NDWS』が支援する子どもたちの家庭の多くは、経済的に厳しい状況にある。そこで『NDWS』は、母親を対象に、収入向上のための訓練を考えていた。そんな折、フィンランドのNGOの支援によって、縫製技術初級トレーニングが実現したのである。が、予算は60万円。材料費や母親たちの交通費、講師謝礼などを賄うには十分ではない。そこで考えたのが家族の有効活用である。

ツアー時の通訳・ラジャさんは、『NDWS』代表リタさんの兄。その妻・サヌーさんは縫製学校を運営している。彼女が講師を担うことで人件費を削減し、実現にこぎつけたのである。

半年間の訓練は大好評だったそうだ。自分のクルタを縫えるまでになったようだが、1年間の上級コースを受講しない限りは仕事を請け負うレベルに達しないらしい。お母さんたちは、もっと勉強したいと意欲を見せているという。間を空けずに上級コースの訓練を開始すべきだが、約100万円かかる費用のうち、フィンランドのNGOが支援を申し出ているのは40万円ほどとのこと。実現に向けて、当会からの支援も検討したい。

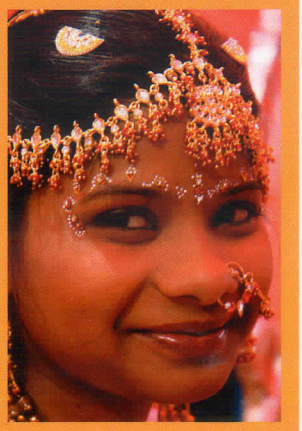
国内活動報告

'17年9月30日（土）、10月1日（日）に東京のお台場センタープロムナードにて、グローバルフェスタJAPAN2017が開催された。今年は過去最高の来場者数を記録し、2日間で12万861人の方が来場したとのことだ。当会も例年通り出展し、ビーズアクセサリーを中心としたフェアトレード商品や、ネパールの雑貨を販売した。またブースではパネル展示を行い、活動報告コーナーでは代表の長谷川が活動報告をした。グローバルフェスタは国内最大級の国際協力イベントともあって、国際協力や開発・支援などに関心のある、たくさんの方々とお話する機会を得ることができた。スタディツアー参加者をはじめ、遠方から駆けつけてくださった方、忙しい合間を縫って毎年ご参加くださっているボランティアの方たちのご協力に、心より感謝申し上げたい。

Information

ブライダル基金

レスキュー・ファンデーションでは、人身売買の被害者の女性の自立支援の一つとして、結婚を望む男性との縁組を行っています。インドでは、金のアクセサリーやサリー、日用雑貨を嫁入り道具として持参しており、一人当たり7～9万円の費用がかかります。また、挙式費用として13～15万円ほど準備しなければなりません。そこで、当会では『ブライダル基金』を設け、結婚式にかかる費用を**一口 1,000 円**としてご協力いただいています。



職業訓練

プリベンション・キャンプにて縫製技術を学んだ女性に対し、卒業時、1台のミシンと仕立て開業に必要とされる道具一式を提供しています。一人当たり、1万2,000円の資金が必要とされます。女性たちの夢実現に向けて、**一口 1,000 円**としてご協力お願いいたします。

振込先はこちら!

郵便振替

口座番号：00100－5－713661
加入者名：トクヒ) ラリグラス ジャパン

※銀行振り込みの場合
銀行名：ゆうちょ銀行
支店名：0一九（ゼロイチキュ）店（019）
口座番号：当座 0713661

銀行振込

銀行名：三菱UFJ銀行
支店名：麻布支店（店番：570）
口座番号：普通預金 0158054
振込先名義：トクテイヒエイリカツドウホウジン ラリグラスジャパン